

## 民法 出題の意図

### 問題1

民法における基本的な概念について、抽象的な定義、関連条文、典型例を説明させることにより、当該概念の理解を確認する問題である。基本的な法的概念は、法解釈の基本であり、それを習得することは法解釈の上での必要条件である。実務法曹となるための学習を進めていく上での最低限のスタートラインに立っているかを確認する問題である。

### 問題2

「時効と登記」という問題の理解を問う問題である。本問題は、判例準則によれば、「時効完成後の第三者」に該当し、一般に、民法177条が適用され、時効取得者と第三者が対抗関係に立つことになり、時効取得者は登記なくして第三者に対抗できないとされる。しかし、必ずしも時効完成（時効による物権変動）を知らない時効完成後の第三者が、多年に渡る占有の継続により、第三者が背信的悪意者に該当する場合があるとされるので、その要件についての理解を問う問題である。また、時効に関する判例準則について判例と異なる考え方を採用するのであれば、その結論、及びその法的根拠について説得的な理由を付して説明する必要がある。

（参考判例：最判平成18年1月17日民集60巻1号27頁）